

## 第491回 放送番組審議会

1. 日 時 2013年11月19日(火) 午後1時30分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室
3. 委員総数 12名

### 出席委員 8名

委員	池田 克典
委員	吉江 信博
委員	鈴木 正之
委員	平 英一
委員	國分 正人
委員	千葉 隆史
委員	嶋 誠治
委員	丸山 謙一

### 欠席委員 4名

委員長	坂本 修
副委員長	柴田 和子
委員	村川 健一
委員	五日市知香

社側出席者

檜崎 憲二	(代表取締役社長)
山口 英二	(常務取締役)
青山 尚之	(取締役報道制作局長)
菅野 智	(営業局長)
野田喜代志	(報道制作局次長)
澤藤 寛明	(報道制作局制作部副部長)

事務局

遠藤 隆	(編成技術局長)
平井 直子	(編成技術局編成部副部長)

#### 4. 議 題

1. 2013年10月5日(土) 10:00~10:30 放送  
「翼は海を越えて ~歌が紡いだ絆の物語~」
2. その他

#### 5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見

#### 6. 意 見

##### 委員側

- 3人の小学生が海を渡って英語で詩を朗読。仮設住宅でインタビューしていたお母さんの「わらしべ長者」という言葉が印象的。子供の言葉で聞き取りにくいところがあったので字幕がほしかった。いつのことかわからないシーンがあったので字幕やナレーションで説明してほしかった。
- 八神さんの活動からその経緯はナレーションでわかりやすかった。よいナレーションだった。子供たちの表情、笑顔も緊張感もあった大人の感動にこどもは自分たちが思っている以上に反応しているところが面白かった。
- 大槌小学校のそのほかの子供たちがどういう受け止め方をしたのか知りたかった。子供のお母さんが亡くなったことにあえて触れなかったことが安心して見られる番組だった。震災の表現、どうやって震災を伝えるか岩手県だからこそつらいモノがあると思う。
- 今回の番組は30分では内容が濃い、1時間ほどの時間がほしかった。震災には傾斜しないで再生や希望に向かって挑戦していくよい番組だった。子供たちが変化していく姿、音楽の力のすごさを感じた番組だった。

##### 局側

- 差し迫った日付で取材したので日付は入れなかった。時間があれば子供たちのインタビューも入れたかったが、30分にまとめるために入れなかった。
- 時間が経って震災をどういう表現をするか。重い課題。あまちゃんはどう表現するか。そこに関心。震災をどう表現するか被災県のテレビ局の課題。